

KEIO 2020 project 2018年度活動報告

『KEIO 2020 project 2018年度活動報告』

■2018年度の活動の総括

2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプで日吉キャンパスを訪れる英国チームをサポートする学生ボランティア組織として2016年度からスタートさせた本プロジェクトであるが、今年度は大きな飛躍を遂げる一年となった。その理由は、未来先端基金および浅野均一記念研究奨励金の採択を受けたことにより、学生主体の活動を幅広く支えることが可能になったこと、体育研究所の公な教育研究活動として各種活動を展開することができたことが挙げられる。体育研究所では、活動代表者として石手靖君、人文社会

領域アンケート担当として村山光義君、地域スポーツ振興教育担当として村松憲君、オリンピック教育（国内）担当として須田芳正君・坂井利彰君、ボランティア活動教育担当として永田直也君・福士徳文、国際交流教育・他教育機関ジョイント担当・プロジェクトコーディネーターとして稲見崇孝君、がチームとなって学生の主体的な活動をサポートした。それぞれの助成に対する活動報告は以下を参照されたい。また、今年度のスタートには、新入生向けの説明会を行い、組織の拡大を図った結果、年度末には KEIO 2020 project の公式 LINE 登録者数が約700人と、非常に大きな組織へと成長した（図1）。組織を拡大するにあたっては、今までの体制を見直し、新たに図2のような組織体制を確立し、活動を行った。

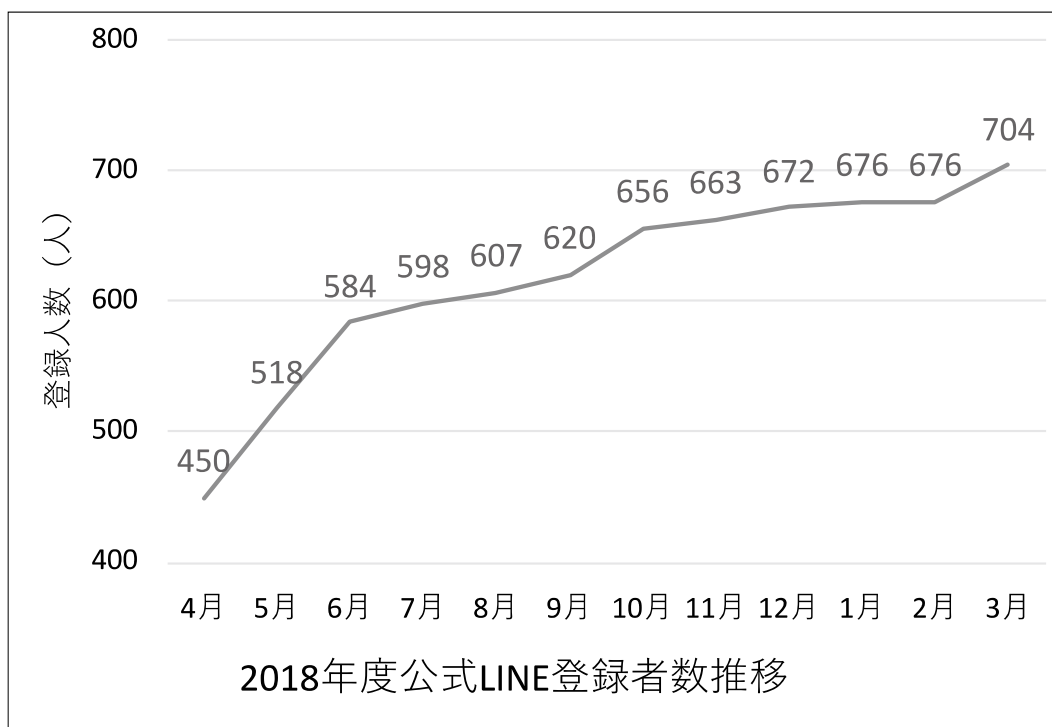


図1

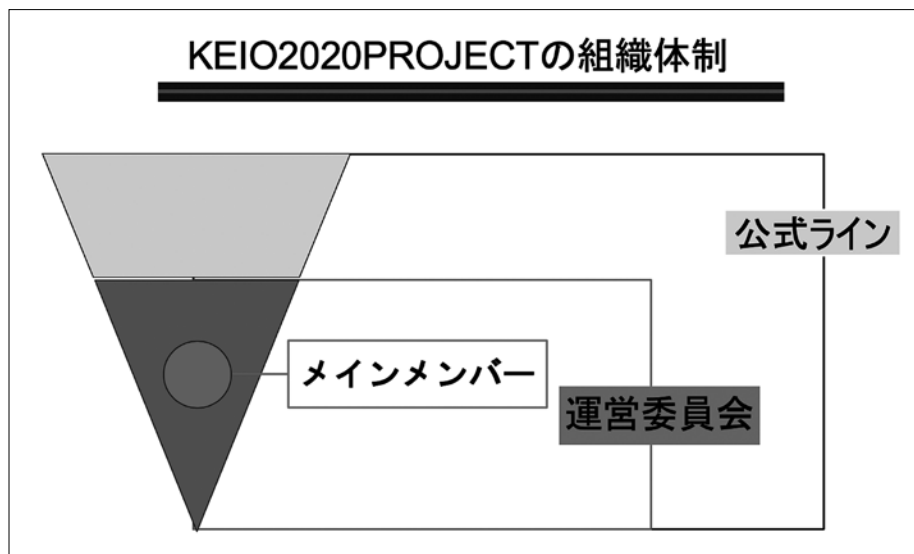


図2

メインメンバーは、昨年の夏以降にプロジェクトに参加した2年生、つまり2020年を4年生で迎えるメンバーを主として構成された。主に、プロジェクト全体の動きを把握し、新しく立案された企画の取りまとめや、教員との連絡・連携を担当した。2019年度にはメインメンバーのほとんどが三田キャンパスに拠点を移すため、年度途中から1年生もメインメンバーに加え、2年生から1年生へ役割の引き継ぎも随時行われた。運営委員会は、メインメンバーに加えて2018年春以降から活動に参加した1年生の中でも自らがギアとなって運営を希望する学生で構成された。運営委員会は、毎月1-2回の運営ミーティングを定例で行い、新企画の立案や進行中の企画についての話し合い、情報共有などを行った。また、運営委員会が企画したイベント当日には、事前に“運営委員会ではないもののKEIO 2020 projectに興味を持っている学生たち”で構成される公式LINEグループに情報を流し、ボランティアとしてイベントに参加してくれる学生を募ることでイベントの運営を行った。これは、昨年までと同様に、運営委員と“2020 projectに興味を持っていてくれる学生”との間に大きな隔たりを作らず、

ボランティアへの参加頻度や貢献度合いに自由度を設けるためである。このような組織体制のもと、昨年以上に多くの企画を実践してすることができた。活動の詳細は、以下に「活動の足跡」として記載する。しかしながら、ボランティアという性質上、運営委員会メンバー内での貢献度や負担にバラつきがあるのも事実である。2019年度の活動ではこうした温度差をなくすためにも、2020年の事前キャンプと同じ夏季シーズンに来日する競技団体との交流や、塾長室や国際連携推進室、日吉運営サービス、体育会をはじめとした関連部署との塾内連携をより強固にするなど、2020年に向けてリアリティーのある活動を展開したい。とはいえ、体育研究所としてはKEIO 2020 projectの活動を推進するにあたり、本プロジェクトに関わる学生自らが“知り”、“考え”、“養う”過程で蓄積・形成される【人間の生きる力】を育成する、というスタンスに変わりはない。そのために、学生主体の活動を支えながら成長を促す教育的側面と、本プロジェクトを通して学生がどのように成長・変容したかなどを、各種研究手法を用い分析・検証する研究的側面を合わせ、教育研究機関としての使命を全うできるよう引き続き所員

で力を合わせ邁進していきたい。また各種企画・ボランティアに関わった学生には、体育研究所から修了証を発行し、在学中の行動の証を記した。2019年度には本プロジェクトを通じた活動に積極的に参加している学生を表彰する制度を設けるなど、蓄積されたものへの評価と今後の活動への更なる貢献を期待する取り組みにも着手していきたい。

◆参照

□未来先導基金：

(http://www.dff.keio.ac.jp/activity/programs/2018/02_detail.html)

□浅野均一記念研究奨励金：p33～36を参照

■2018年度 活動の足跡

1. イギリスオリンピック委員会 (British Olympic Association：以下、BOA) による日吉キャンパス視察 (5月14日) 【図3】

各競技団体の BOA 代表者が日吉キャンパスを視察のために訪れ、KEIO 2020 project のメンバーはキャンパスツアーのサポートを行った。ツアー中、各競技団体の代表者らから競技特性や英国文化についての話題提供もあった。BOA の方々との初の直接的な交流となり、今後の連携への期待が高まる機会となった。



図3

2. 読売新聞市民講座「Think サッカー ～データからサッカーを考える～」(5月19日) 【図4】

慶應義塾大学が読売新聞社と主催した市民公開講座の企画立案から運営までを KEIO 2020 project のメンバーが行った。地域の小

学生やその保護者、体育会学生、各企業の方々を project メンバーが一斉にとりまとめるという機会は初めてのメンバーが多く、大きなイベントを遂行する難しさや、事前準備の大切さを実感する貴重な経験となった。



図4

3. 英国パラリンピック委員会 (British Paralympic Association: 以下、BPA) との事前キャンプ覚書締結式 (5月24日) 【図5】

慶應義塾大学・横浜市・川崎市は、東京2020パラリンピックの際の事前キャンプについて、BPAと覚書を締結し、その締結式を

日吉キャンパス協生館イベントホールにて行った。KEIO 2020 projectのメンバーは、調印書の受け渡しなど、式のサポートを行った。また、終了後のレセプションでは、締結式に参加していた英国のパラ柔道選手団と直接意見交換をする機会にも恵まれた。



図5

4. British Columbia 大学野球部交流プログラム（8月17日）【図6】

カナダの British Columbia 大学と体育会野球部の親善試合が行われ、両校の国際交流を目的としたプログラムを KEIO 2020 project メンバーが企画・運営した。2020年までに行う各競技団体との地域交流イベント等を想定し

てプログラムを計画した。外国語でのコミュニケーション促進のため、両校の野球部員が混合チームを結成しクイズや伝言ゲームを行い、また日本文化に触れ楽しんでもらうために、日本舞踊の鑑賞、射的やけん玉、書道を体験した。



図6

5. KEIO 2020 project 夏合宿（8月28日～30日）【図7】

蔵王坊平アスリートヴィレッジにて、スポーツ施設見学、近代五種競技スタッフとの交流、プロジェクト内の交流の促進などを目的に夏合宿を行った。体育・スポーツ系の学部がない本塾の塾生にとっては、各種トレーニング施設や器具は見慣れないものばかりで

あった。近代五種スタッフとの交流は、競技についてはもちろん、選手を支える環境面などについても話を伺うことができ、英国チームをサポートする際のイメージを膨らませることができた。そして何より、KEIO 2020 project メンバー同士の交流を深めることができ、今後の活動を推進する良いきっかけとなった。



図7

6. 英国視察（9月5日～11日）【図8】

KEIO 2020 project メンバー13名と体育研究所の教職員3名で、英国を視察した。視察では、2020年に英国オリンピック・パラリンピック選手団をサポートするにあたり、1) 英国の文化について、2) スポーツ・バリアフリーについて、3) 2012年ロンドンオリンピックを成功に導いたイギリスのボランティアについて、4) BOA・BPAについて、5) 大会後のレガシーについて、学び・理解を深めることを目的とした。英国滞在中は、する・観る・支える、の視点にも着目し、Queen Elizabeth Park（オリンピックパーク）視察やケンブリッジ大学訪問、サッカー観戦、ロンドン市内観光（バリアフリー環境調査）などを行った。行く先々で、日本にはない英国文化を発見・体感し、また様々な人と接する中でnationalityを感じ、そのギャップを含め現地を訪れてこそその学びを得ることができた。

7. 英国パラ水泳選手と横浜市小学生との交流サポート（9月21日）【図9】

2018ジャパンパラ水泳大会に出場するために来日していた英国パラ水泳選手と横浜市立大曾根小学校の児童との交流会が行われた。KEIO 2020 project のメンバーは、交流会全体の進行のサポートを行い、会場整備や小学生の誘導、質問の際の通訳などを行った。



图8



图9

8. 港北区・都筑区区民祭りでの英国事前
キャンプPRブースの出展（10月20日・11
月3日）

10月20日は新横浜少年野球場で開催された
2018ふるさと港北区民祭りに（図10）、11月
3日にはセンター北駅前で開催された第24回
都筑区民祭り（図11）に英国事前キャンプを
PRするブースをそれぞれ出展した。事前キャ

ンプをPRするだけでなく、英国について知っ
てもらうために、紅茶の試飲やイギリスやオ
リンピックに関するクイズを実施した。また、
ロンドン橋をモチーフに作成したリンボーダ
ンス体験などを行った。近隣地域交流との起
点づくりはもちろんのこと、認知度調査も実
施できた。



図10



図11

9. Think Athlete Legacy (10月24日)

【図12】

元オリンピックの室伏由佳さんを講師に招き、KEIO 2020 projectのメンバーとオリンピックボランティアに関して意見交換を行った。実際にオリンピックに出場した室伏さんの実体験を聞き、オリンピックボランティアとしての自分たちの役割がいかに重要であるかを再認識する機会となった。

10. 横浜マラソン・東京マラソンボランティア (10月28日・3月3日)

実際のメガスポーツボランティアを体験すべく、本年度も二つのマラソンボランティアに参加した。横浜マラソン(図13)では手荷物の返却や総合案内、東京マラソン(図14)では案内版の掲示などを行った。



図12



図13



図14

11. ひよしマップ説明会（12月21日）

「ひよしマップ」作成のための説明会を日吉商店街の方々向けに開催した。ひよしマップは、KEIO 2020 project が作成する日吉商店街のマップのことで、英国チームの選手やその家族はもちろん、さらには日吉を訪れる日本人や海外から来た方々が行きたい店の場

所やその他の情報を簡単に見つけられることを目的に作成している。説明会には日吉商店街各通りの組合の方々、銀行や郵便局、飲食店の方々が参加され【図 15】、日吉に多くの外国人が訪れる可能性があることと、これに合わせて作成する「ひよしマップ」への理解のために非常に重要な説明会となった。



図15

12. 学食 Fish'n'Chips 企画【図16】

英国チームの事前キャンプ PR や英国選手を応援し日吉キャンパスを盛り上げることを目的に、日吉食堂部に協力いただきイギリスの伝統的な食べ物である“Fish'n'Chips”を販売した。1月15日（火）から1月30日（水）

の約2週間、1日60食限定で販売したが、全て完売となるほど大盛況であった。英国を視察したメンバーが英国を視察していないメンバーら情報を共有しながら共に考え、機運向上に努めた。

図16

13. ユニバーサルイベント「シッティングバレー体験会（2月6日）【図17】

株式会社リクルートと横浜市立城郷小学校、弊所の共催でユニバーサルイベントを実施した。小学生たちが障害者スポーツおよび障害者の方々への理解とパラリンピックへの関心を高めること、また地域とのイベントを実施する際のノウハウを形成することを目的に企画した。KEIO 2020 project のメンバーは、イベント当日までに小学生たちとの練習会や打ち合わせを重ね、本番当日はリクルート社所属のシッティングバレーボール日本代表の田澤選手らとともに、シッティングバレーを通じたパラスポーツの理解とその多様性を考えるイベントを実現することができ

た。また、本イベントは東京2020参画プログラムの公認プログラムとして承認されている。

14. 横浜慶應チャレンジャー「レセプションパーティー」（2月24日）【図18】

事前キャンプの際のレセプションパーティーの開催を想定し、テニスの国際大会である横浜慶應チャレンジャーのレセプションパーティーを企画・運営する機会を得た。KEIO 2020 project のメンバーは会場の装飾や司会、書道体験や浴衣の着付けのブースなどを展開した。外国人選手に日本の文化を伝える難しさや会そのものを進行する際のマナー等についても体験することができた。



図17



図18

15. Think Universal ～バリアのない社会を考える～（3月12日）【図19】

井坂昌明先生（大阪行岡医療大学）、錦戸蒼馬先生（千里リハビリテーション病院）の2名を講師に招き、障害のある方へのふるまいや、車椅子を実際に使った乗り方やサポートの仕方を学んだ。日吉キャンパス内を車椅子で移動するワークショップでは、坂道の移動の大変さや段差が多いことに気づき、バリアフリー化への課題を発見することができた。

16. マナー講習会（3月19日）【図20】

今年度もマナーインストラクターである福田智子先生（中北薬品株式会社）を講師に招き、名刺交換やメール送信の方法など、主に渉外活動時を想定したマナーについて学んだ。このような講習会は、オリンピックボランティアにとどまらない、学生の成長を促す活動として非常に貴重な機会になっている。参加した KEIO 2020 project のメンバーは、講習会中に新たな知見を得ると同時に、考え・実践することにより、今後の活動につながる現代の実学となった。



図19



図20

■課題と展望

冒頭にも述べたように、課題も浮き彫りになりはじめている。塾生の興味・関心を得たことも手伝い、KEIO 2020 project の公式 LINE に登録する学生の数（量）は当初予定していた 300 名程を大幅に越えることができた【図 1】。2020 年に入学する塾生の参加を考慮しても、さらに大所帯になることが予想される。今後、“質”を問われることは言うまでもなく、充実した教育プログラムと塾生同士の結束力の向上が望まれる。現在は男性教員がサポートに当たることが多いが、女性教職員のサポートも時として必要になるだろう。

2019年度の活動は、未来先導基金の2年目の採択通知を受けており（採択名：KEIO スポーツレガシー —東京 2020 オリンピック・パラリンピック英国サポートを通じた“生きる力”を備えた人間育成プロジェクト【KEIO 2020 project】—、代表：石手靖君）、加えて体育研究所所内研究費の助成も決定していることから、これらを基に学生主体の活動を幅広くサポートしていく予定である。活動のコンセプトは今年度までと同様、【2020年に実際にボランティアを行うまでに、経験・実践・準備しておくべき活動・取り組みを学生主体で考え、学び、その過程で培った力をもって BOA・BPA を最大限にサポートすること】に

ある。さらに2019年度は、現時点で日吉キャンパスにて事前キャンプを行う可能性のある14種目分の「スポーツユニット」を編成する予定である。スポーツユニットは言うなれば KEIO 2020 project 内に各競技種目を担当するグループであり、各競技のサポートを専門的に行うため、勉強会や必要なボランティア像を見出していくことはもちろん、体育会各部や塾長室、英国選手団の窓口になれる存在を目指した活動を計画している。活動の詳細については、次年度の活動報告書にて報告するが、2019年度の活動も2020年を迎えるにあたって貴重な時間となるように、各活動のプロセスを大切にしながらサポートを続けていきたい。

最後に、今年度の活動も多く慶應義塾の教職員と関係企業、地方自治体、団体の方々に計り知れない強力・サポートをいただいた。この場を借りて、御礼申し上げますとともに、今後の活動にも引き続き、ご理解ご協力いただければ幸いです。

【文責：福士徳文】